

・一通りの勉強を終えてしまったら…

過去問をたくさん解きましょう

ただやればよいというわけではありません。この場合は点数自体にもあまり意味はありません。なので、点数を見て一喜一憂しないでください。入試問題の傾向や自分が苦手な分野を分析し、確実に受かるための作戦をたてるためにたくさん解きます。受験で怖いのは傾向変化です。過去問を多く解けば解くほどどんな変化の仕方をするのか、どれくらいの周期で変化をするのか、変化した後の問題はどこから来ているのかなどざっくりとですが分かる場合があります。傾向変化は受験生全員が動揺するものですし、当日の試験が始まる瞬間にしか分かりません。しかも、その変化に自分一人に対応しなければなりません。その中で合格を勝ち取る人は実際にちゃんというわけです。その人たちは運がよかったのでしょうか？確かに、変化後の方が得意だったというラッキーな人もいますでしょう。しかし、自分の人生がかかった大事な勝負を運に委ねたくはないですよね。運に任せないで合格を勝ち取るためには、傾向変化をできるだけ想定内にすることが大切です！たとえ変化したとしても、「思った通り！対策しておいてよかった。」と思えるだけで精神的に楽になります。動揺が小さければ小さいほど他の受験生より有利になります。もちろん、例年の傾向を分析しておけば直前期にどこを重点的にやればいいのかの目安になります。また、何年分か解くことでいつも間違えるところや点数を落とす部分、点数を上げられるポイントを見つけられます。問題集を繰り返すうちに答えを覚えてしまい、一つのパターンの問題しか解けないなんてことが起きます。それでは自分の苦手分野が苦手なままで気づきません。ちょっとひねられた問題でも対応できるようになってこそ身についたと言えるのです。次に、問題の傾向が分析できたら必勝パターンを考えます。問題を解く順番、時間配分、確実に取りたい問題、捨てる問題を大まかに決めます。ただ、得意な分野が難問、悪問だったということがありますのでその場合は他の問題を優先させるしかありません。そんな時に焦らないように必勝パターンはいくつか作っておくべきです。想定外をいかに想定内にするかで合否は変わってきます。

教科書・図説などくまなく読みましょう

早い時から勉強にとりかかっている人の中には夏明けには勉強を終えてしまう人もいますよね。試験でも安定して高得点をとれる人、過去問で常に満点近くをとれる人はその科目については終わったと言っても大丈夫でしょう。まだ終わっていない科目を重点的にやることと過去問に取り組むことが第一ですが、まったく手を付けないと忘れる一方です。1日に30分程度はやれるといいですね。通学中の手持無沙汰な時や休み時間など、過去問をやるには時間が短いという時に教科書や図説をざっと見ましょう。この時大事なのは、太字になっているところではなく、注釈になっているところや端に小さく書かれているところ、発展になっているところです。授業のときは基本的なことを教わるので飛ばされてしまうところが多いです。しかし、教科書に書いてある以上出ないとは言えません。特に難関校になれば狙われます。他の受験生と差をつける部分になってきますから教科書・図説は利用しましょう。速読の練習にもなりますよ。ついでに基礎を忘れていないかの確認もできます。もちろん、新しい問題集をやっても構いませんが、入試問題を参考に作られた問題集では全く同じ問題が載っていることがよくあり、手応えを感じられないことがあります。また、問題集を解き終えることに目的がすり替わってしまい、時間をかけた割に身につかないこともあります。高いお金を出して問題集を買う前に手元にある物を利用しましょう。